

翌朝私は妻をさそつた。

「わしだけでは気が済むまいから、お前も一緒にさがしに行かんか。」

妻も同意して、三男を背負うて行くことになった。

舟が来たので、それに便をもらい本川に入った。

川を上って行く途中、江波あたりで死んだ馬が流れて行く。

舟にこつんとあたるものが人の死骸である。あちらにも、こちらにも、頭が出たり沈んだり、皆

被爆した人の姿である。

でも、子供をさがしに行く張切った私達には、あまり気味悪く感じなかった。

舟を住吉橋の西側に着けて上

り、私達は舟入町から観音町まで限なく救護所を訪ねた。どこ

にも見当らない。体も心も疲れ果てた。

三浦基農さんの体験記より



国立広島原爆死没者追悼平和祈念館企画展

しまつてはいけない

記憶

-焦土をさまよう-

写真：米軍撮影（広島平和記念資料館提供）

期 間 平成18年4月1日(土)～平成19年3月31日(土)

展示会場 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 情報展示コーナー

時 間 3月～11月 8:30～18:00 (8月は8:30～19:00) / 12月～2月 8:30～17:00

入場無料

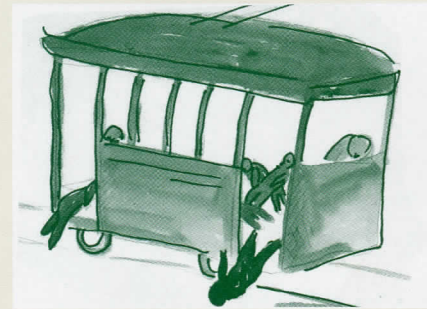
原爆により焦土と化した広島市の街には、助けを求めて避難する負傷者や、家族・知人の安否をたずねて探しまわる人など、さまざまな人々が行き交っていました。

今回の企画展では、被爆者一人一人が当時歩いた道筋をたどり、その途中で見聞きした被爆の惨状を、被爆者自身が書いた体験記を中心に、地図や関連写真などとともにご紹介します。

被爆者の「ところ」と「ことば」にふれてください。

万代橋を渡り、鷹の橋の交叉点へ出ると、ロータリーの辺りに二十人位大ヤケドの人が倒れて、虫の息で「水を下さい、水を吞ませて・・・」とうわいている。逃げる様に市役所の前へ行くと、鉄骨だけになった市電の中へ十人位の人々が、真黒く男女も別らず死んでいる。紙屋町へ行く途に、今日銀前にも一台黒コゲの電車あり。二百メートルおきにある防火水槽の中へは、五～六人が頭をつっこんだまま丸焼けになり、真黒な死体が重なっていました。

田坂元さんの体験記より



元さんの描いた絵 (広島平和記念資料館提供)

大正橋から比治山線市電通りを鶴見橋から、白神社前一紙屋町一相生橋と電車通りを歩きました。おびただしい死体を始めは「またぐ」事をためらっていましたが、市内に残した母の事が心配で、仕方なく念仏をとなえながら、またいで歩きました。相生橋から何度か、当時の仮住居材木町に入ろうと試しましたが、火勢に押され断念し、相生橋で仮眠。橋の上には被災者と肉親を気づかう家族達が、真夏と云うのに寒さで近くの焼木を集めて体を暖めました。私達の目前で次々と息を引きとる方が多数おられ、この世の生地獄を見たような気がします。

小川智道さんの体験記より



智道さんの母、千代子さん (中国新聞社提供)

【開館時間】

3月～11月……8:30～18:00 (8月は8:30～19:00)

12月～2月……8:30～17:00

【休館日】年末年始(12月29日～1月1日)

入館無料

【交通案内】

JR広島駅(南口)から(約20分)

- バス/広島バス吉島方面行で「平和記念公園」下車
- 市内電車/紙屋町経由広島港(宇品)行で「本通り」下車
宮島口・江波行で「原爆ドーム前」下車

JR横川駅から(約10分)

- 市内電車/広電本社前行で「原爆ドーム前」下車

【お問い合わせ】

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

〒730-0811 広島市中区中島町1番6号 TEL:082-543-6271 FAX:082-543-6273 ホームページ:<http://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/>

当館では、被爆体験記と原爆死没者の氏名・遺影を収集し、公開しています。企画展では、被爆体験記を中心に、当時の写真、関連する資料などを展示し、原爆被害の全体像に迫ります。被爆体験記や原爆死没者の氏名・遺影をお寄せ下さい。ご遺族の皆様のご協力をお願いいたします。

